

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用評価書(2019年版)、名古屋中規模建築物環境性能評価マニュアル(2014) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)CPD名古屋みなと物流センター新築工事	階数	地上4F
建設地	名古屋市港区十一屋1丁目16番1、16番2	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,300時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2021年2月2日
敷地面積	11,600㎡	作成者	
建築面積	6,266㎡	確認日	2021年2月15日
延床面積	23,660㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.5

★:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B:★★ C

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・対応性、更新性を高く保ち、将来的なプラン変更に対応できるよう計画されている。 ・高い省エネルギー性能により、地球温暖化へ配慮した設計計画となっている。 		
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・開口部遮音性能の高い建具を採用している。 ・窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積を居室床面積の1/30以上設けることで自然換気性能に配慮している。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・執務室の天井高や窓により広さ感・景観に配慮している。 ・内装仕上げ材の更新必要間隔の長いものを採用している。 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な面積の外構緑化を計画している。 ・メッシュフェンス、防犯カメラの設置により防犯性へ配慮している。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・BPI_m = 0.82とし、建物熱負荷抑制に配慮している。 ・高効率な空調機やLED照明を採用することでBEL_m = 0.46とし、設備システムの高効率化を図っている。 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・自動水栓、節水型便器による節水性能に配慮している。 ・LGS下地、OAフロアの採用により部材の再利用可能性向上へ取り組んでいる。 ・ノンフロン断熱材を採用し地球温暖化棒へ配慮している。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・LCCO₂排出率を抑え地球温暖化防止へ配慮している。 ・燃焼設備を採用せず大気汚染防止へ取り組んでいる。 ・駐輪場の設置により自転車の利用促進を図っている。 ・一般駐車スペースと荷捌き用車両の駐車スペースを別途確保し、交通負荷抑制に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)CPD名古屋みなと物流センター新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.1187603	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.01187603	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.05938015	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。